

# Newsletter

NPO法人

日本こどものための委員会

E-mail: [info@cfc-j.org](mailto:info@cfc-j.org)

URL: <http://www.cfc-j.org/>

## 第4回・第5回セカンドステップ指導員研修会

### アメリカCFC ローリー・ベーカー氏による指導員研修会を実施しました

第4回セカンドステップ指導員研修会(3月)に続き、第5回セカンドステップ指導員研修会が5月3・4日に東京・代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターにて、シアトルのCommittee for Children (CFC)よりローリー・ベーカー講師を招き、行われました。様々な障害のある子ども達に実践研究をしている、山形大学の宮崎昭教授も参加されました。

日本での指導員研修会が2度目のベーカー講師は、通訳との呼吸もぴったり合い、和やかな中にも程よい緊張感の研修となりました。

**第1日目**・・・小グループごとの活動を交えた、セカンドステップの教材の講義や、屋外でのソーシャルスキル・トレーニング

**第2日目**・・・問題解決のステップ、怒りの扱い、日常への展開を中心とした研修

両日とも、実践重視の視点より、神奈川県秦野市の若木保育園(金子義男園長)での実践をビデオや園児の作品にて紹介しました。

今回の研修会のため、通訳や実践報告、運営のお手伝いなどのご支援をしてくださった方々、ありがとうございました。

## 第3回セカンドステップ国際会議

### 2003年4月4日～6日 ノルウエーのオスロで国際会議が開かれました

アメリカ、ドイツ、デンマーク、ノルウエー、アイスランド、イギリス、スウェーデン、スロバキア、グリーンランドと日本の10カ国から19人が参加。このうち、グリーンランドとスロバキアの人たちが今回新たに加わり「セカンドステップ」が世界に広まりつつあることを実感しました。

ベルゲンとハイデルベルグの3人の大学教授による研究発表や、オスロでの実践報告、各国のセカンドステップの翻訳・出版・研修の進行状況の説明が行われました。

セカンドステップを北欧の国々に広めて大きな働きをしているデンマークでは、アメリカの「ファミリーガイド」ビデオと同じものをデンマークの役者で作成・販売したところ、「文化的に合わない」との苦情により、全部回収という失敗事例の報告が印象的でした。さらに興味深かったのは、デンマークの教材をスウェーデンが訳してデンマークから翻訳料を貰ったうえで、5%のロイヤリティをデンマークに(本家のアメリカCFCにではなく)支払うことが、CFCとの合意の上で決まったことでした。

次回は2004年4月、スウェーデンのストックホルムで開催される予定です。(出席者:渡辺紀久子)

「日本こどものための委員会 ニュースレター」は、NPO法人 日本こどものための委員会の活動内容を会員のみなさまをはじめ、セカンドステップに関心のある方々へご紹介することを目的に発行しています。そして、セカンドステップだけにとどまらず、子どもを取り巻くさまざまな課題に関する研究や意見も掲載していく予定です。より多角的な視点から、子どもの成長を支えていくためのヒントになればと思います。また、それぞれの地域で、セカンドステップのプログラムを実践されている方々の情報交換の場としても、どしどしご利用ください。ご投稿は、右記事務局宛にお願いいたします。

#### 【事務局】

〒156 0042

東京都世田谷区羽根木 2-25-8

TEL 03-5329-1461

FAX 03-5329-1491

# 児童養護施設でセカンドステップを実践してみました

木村秀

## 児童養護施設とは

児童養護施設とは、保護者のない児童、虐待されている児童、その他環境上養護を要する児童（乳児を除く）を入所させ、これを養護する施設（児童福祉法第41条）のことです。3歳から18歳までの子が生活しています。施設が子ども達の家であり、生活の場で、昼間は学校に行きます。施設職員は子どもと寝食を共にしながら、日常生活の援助やケアをしています。

近年は、養育困難、ネグレクト、被虐待などの理由で、親との基本的信頼感（子どもが保護者に対して無条件に安心感を持てること）が確立されずにやってくる子が大勢います。

## 児童養護施設でセカンドステップを導入するには

施設職員との関わりを通して、子どもたちは基本的信頼感を少しずつ獲得していきます。セカンドステップを導入するためには、子どもと施設職員間で信頼関係を築くことができ、子どもが基本的信頼感を持っていることが前提と考えています。

## 生活場面で展開できるセカンドステップ

被虐待児は、セラピーを通して係わることによって少しずつ落ち着き、一对一の場面ではほとんど問題なく過ごせるが、子ども同士の中では、いつもトラブルを起こしていたりします。例えば、虐待された経験から自分の身を守ることが精一杯であり、他人を気遣う余裕などなく育ってきているので、周囲からの刺激に対して敏感で、悪意のない「うっかりぶつかった」という行動でも、被虐待児にとっては攻撃されたと考え、報復行動をとりさらなるトラブルを作っていたりします。

こういう状況が起きたときに、被虐待児はいつも叱られて嫌な思いをして、その時はお終いになってしまい、また同じことをやって叱られるということの繰り返しになっています。ここで、セカンドステップが登場します。こういう時にどんな対応をしたらよいかを学び、練習し、子どもが学習したスキルを日常で適切に使えるように支援します。

セカンドステップを学校で実施するのと、児童養護施設で実施するのとの違いは、児童養護施設だと、子どもの生活場面に施設職員がいるので、日常の展開のしやすさが特徴だと言えます。日常生活の中で施設職員が心がけているのは、スキルを使えたときに誉めることと、スキルを使えなかった時は叱らずに、やさしく「セカンドステップでは、どうするんだった？」と聞くことです。こうすることで、子どもたちは、いつも叱られていた行動ではなく、セカンドステップで学んだ行動を取るようになります。職員も「セカンドステップでは、どうするんだった？」と聞くだけで、子どもが学習したスキルを思い出し、適切な行動が取れるので、叱ることも少なくなります。いつもまわりの子にちょっかいを出し、やりかえされて、またやりかえすということを繰り返していた子が、「　　ちゃんが嫌がるから、ちょっかいは出さないんだ」という発言がみられるようになりました。

## 褒められることで自尊心が向上する

また、セカンドステップで学んだスキルを使えたときに、子どもたちは褒められるので、セルフエスティーム（自尊心）が向上し、被虐待児がよりよい対人関係をつくれるようになり、子ども同士や職員ともより居心地のよい環境で生活できるようになってきたように思います。

（東京都勝山学園）

## 答えをセカンドステップに見出して

(第1回研修生) 島野正子

### 思いやりの心を育てる具体的方策がセカンドステップ

「思いやりの心を育てる」。これは保・幼・小・中の生活目標として常に掲げられるもので、生活に根づいた言葉といえるでしょう。しかし、大切なこと、との認識はあるものの日頃、私たちはこの言葉を心に留め、深く考える機会を持つことがあったのでしょうか。「思いやり」も「心」も抽象概念で捉えにくいため、日々の家庭生活・集団生活の中で自然と学び取ってゆくもの、との漠然とした結論づけをしてはいなかったのでしょうか。

「思いやりの心」を育てるため、積極的にどんな教育策を用意し、方向づけをどのように行ったらよいのか、具体的な方策を提示しうる人がどれだけいることでしょうか。身近にある言葉ゆえに、注視されることなく見過ごされているように思われてなりません。しかし、私はセカンドステップを知った今、やっとこのプログラムに、その答えを見出した思いでいます。

社会生活をする上で、相互の理解は欠かせない大きな柱となります。「思いやり」というスキルでそれを深めることができ、さらに進み、信頼関係への大きな足がかりとなる、この「思いやりの心」。セカンドステップでは相互の理解に必要なものとして、自己表現能力・共感能力の2つを挙げていますが、その中の共感能力を構成する3つの能力に、この「思いやりの心」を位置づけているのです。これを身につけるため、レッスン11までのさらに細かなスキルを学び、やがてレッスン12でやっと辿り着く「友達を思いやる」心となるのです。ほんとうに分かり易く系統立てて教えてくれます。

### 子育ての指針にもなるセカンドステップ

このプログラムを知れば知るほど、このプログラムに携わってゆけることの幸せを感じ取っています。子どもを対象としたレッスンにもかかわらず、自分自身の意識改革にもつながるものだったからです。

- ◇ 中立的な言い方・褒め言葉の使い方
- ◇ 一緒に考えてあげることの大切さ
- ◇ 落ち着いた声で話しかけ、急がせないこと
- ◇ 何度でも諦めず挑戦してみる勇気
- ◇ 解決方法を与えるのではなく、選び取らせるためのヒントの出し方
- ◇ 繰り返し言ってあげる根気、努力
- ◇ 子どもが出す答えの先回りをしない
- ◇ 押し付けない 等々です。

大人にとっても、子育ての指針となりうる優れたスキルが、数多く盛り込まれたプログラムであることに驚かされました。褒めることひとつをとっても、事実を言っただけで褒め言葉として、子どもに伝わるということ自体、思いも及ばなかった私にとって、素晴らしい学びの場でもありました。自分の仕事柄「子どもに何かを教えよう、教えよう」としてきた姿勢にピリオドを打ち、気づかせることを大切に考えてレッスンに取り組んだつもりです。大きな失敗もありましたが、そのような経験さえも、このプログラムに携わる皆で共有し、自らも学びながら、より良く子どもたちを導いてゆけたら、と思っています。

日本中の子どもたちに、一日も早くこのプログラムを届けることができますよう、心から願ってやみません。

(音楽レスナー)

**理事会から**（理事長 渡辺俊一）

**《第6回セカンドステップ指導員研修会を開催します》**・・・第6回研修会は、2003年8月18日(月)19日(火)、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京・代々木）で開催します。詳しくはウェブ又は「開催のご案内」をご覧のうえ、受講ご希望の方は「受講案内書」にご記入のうえ、お申し込みください。また、お知り合いの方へ是非ご紹介ください。

**《2004年2月までの研修会の予定です》**・・・第7回は、11月29日(土)30日(日)、第8回は、2004年2月28日(土)29日(日)、いずれも上記のオリンピックセンターで開催予定です。なお、2004年夏には、大阪で開催の可能性を探っています。

**《審査委員会を再開します》**・・・本会が、新たに認定する指導講師及び指導員の資格を審査するための「資格審査委員会」が正式に発足しました。委員長は小山望（大学助教授）、委員は、井部文哉（大学講師）、細川かおり（短大助教授）、溝淵雅章（会社役員）（アイウエオ順）の各氏です。詳細は事務局までお問い合わせください。

**《セカンドステップ紹介の図書です》**

『学力の土台：「期待」を引き出す教育改革』（西村和雄編、劉草書房、2003年1月）  
『育てるカウンセリングによる教室課題対応全書5：いじめ』（国分康孝・国分久子監修、図書文化、2003年6月）  
「連載セカンドステップ：キレない子どもを育てる教育プログラム」（『ゆいまーる』コミュニティネットワーク協会、17号、2003年5月）

井部先生の紹介です  
私は、大学卒業後、心理職の国家公務員として、法務省の矯正施設に心理技官で採用され、定年退職するまで38年間、少年鑑別所・少年院・刑務所などで、受刑者・非行少年を調べて、家庭裁判所への報告書を作ったり、矯正処遇部門に処遇方針を示すなど、いわゆる分類鑑別の仕事にたずさわってきました。よろしく。（新プログラム作業班主査）

**《日本人間関係学会第11回大会のお知らせです》**

11月14日（金）～16日（日）東京理科大学理工学部・薬学部（〒273-8510 千葉県野田市山崎 2641、電話 04-7124-1501）にて開催されます。「これからの人生を豊かに生きるための人間関係づくり」をテーマの大会で「セカンドステップ」の発表も行われます。詳しい問合せ先は、東京理科大学理工学部教養科心理学研究室小山望（おやまのぞみ）助教授（電話：04-7122-5553、Email：oyamaken@rs.noda.tus.ac.jp）まで。

**事務局から**（事務局長 溝淵雅章）

**《事務局の近況を報告します》**・・・私たちのNPOは、発足してからこの8月で満3歳となります。これも、会員皆様の力強いご支援の賜物とこの紙面をお借りして心より感謝申し上げます。

私たちのNPOとともに、目的に向かって実践し、または賛同してくださる会員の方々を一人でも多く増やすため、研修・出版・交流・広報活動を展開中です。どうぞ皆様も、このNPOの存在について身の回りの方々にお知らせください。また、活動に関する事など、何でも結構ですから、どしどしご意見・ご質問をお寄せください。私たちは、適切な情報を整理充実させていきたいと思っております。

- 回 私たちが適宜集まって事務作業できる家賃の安い！事務所を近場で物色しています。
- 回 事務局は、次の方たちの協力で再出発することになりました。

溝淵雅章（事務局長） 渡辺紀久子（次長）、松崎行男（部長）、林さおり（経理等）、烏野ますみ（会報編集）、荒井怜子（印刷）。なお、大野晶子、宮川陽名、升井めぐみさんが、小学3年用教材を翻訳してくださっています。

**《次年度の年会費の振り込みをお願いします》**

会員の皆様に会費をお納めいただきたく、お願い申し上げます。賛助会員の方は、3,000円、正会員の方は5,000円を請求させていただいております。振り込みをよろしくお願ひ申し上げます。すでにお支払済みの場合は、行き違いをお許しください。

**振込口座**

日本こどものための委員会  
郵便振替：  
10080-98287261  
銀行振込：  
UFJ銀行東 松原特別出張所  
普通預金 3688724

